

神楽でまちおこし

神楽の魅力を多くの人に知ってもらい、安芸高田市へ訪れる人を増やすための取組や、神楽の継承者育成のための取組を、安芸高田市は行っています。



高校生の神楽甲子園
ひろしま安芸高田



—小学生が神楽を体感—
出会いの神楽
安芸高田
神楽ワークショップ



神楽は、少しずつ形を変えてきています。形を変えたからこそ、多くの人々に受け入れられ、ブームと呼ばれるほどの人気を集めてきましたが、五穀豊穡を願い、これまで舞われてきた神楽を守ろうとする思いもまた強くあります。この「変わる神楽」と「変わらない神楽」が絶妙なバランスを保っているのが、今の安芸高田市の神楽です。

神楽は地域に根付いています。神楽団にとっては、昔から舞われてきた、秋の収穫を祝う氏神社で舞う秋祭りが特別な意味を持ち、地域の協力がある神楽団が成り立っています。神楽団は地域に支えられてさまざまな場所で活躍します。神楽団は、地域の誇りです。

神楽は、舞手、楽人、裏方と、観客が一体となることのできる郷土芸能です。神楽の盛り上がりとともに拍手をしたり、掛け声をかけたりすることで、より一層神楽が盛り上がる。神楽を見ているあなたも、神楽という文化を担う一人なのです。

生まれ育ったまちに神楽があることを誇りに思う。それが、神楽を継承していく風土を作る、と信じています。



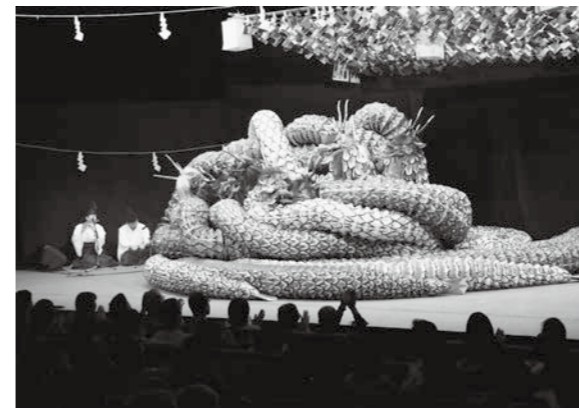
横田子ども神楽団



八千代子ども神楽団



高猿神楽ジュニア



ひろしま安芸高田神楽
東京公演



神楽団に伝わる舞を、ベテランから若手へ。神楽が継承されてきた歴史が安芸高田市にはあります。

取材に行くと、どの神楽団も本番さながらの迫力で、練習に取り組んでいました。舞手が楽人に、楽人が舞手に合わせるように、息を合わせて練習する姿が印象的でした。

神楽団は第2の家族。多くの言葉を使わずとも、互いの意思が通じている団員たちの姿がありました。互いに信頼しあい、協力して一つの神楽を舞う。一つの神楽を作り上げることが団員同士の絆を深め、絆が深まるほど、一体感のある神楽となるのかもしれない。

神楽団員は、神楽が生活の一部。仕事をしながら練習を重ね、週末には神楽公演をする。そこまでのことができるのは、神楽でつながった仲間たちと共に励み、神楽を愛し、地域を思う気持ちがあるからこそです。



羽佐竹子ども神楽団



来女木子ども神楽同好会



塩瀬こども神楽団



天神こども神楽団



原田子ども神楽同好会



上河内神楽団こども神楽部



日吉こども神楽団

子ども神楽

神楽の継承のため子どもたちに神楽を教える団体が、安芸高田市内に17団体あります。この小さな神楽人たちが、安芸高田市の神楽の未来を拓きます。

神楽は私たちの誇り。
そして私たちも、神楽の一部分